

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名③ ばれいしょ産地の維持・強化						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6			・産地の農家とよく話し合いをされていた	
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6			・ばれいしょは長島地区を代表する農産物なので妥当	
活動体制・ 活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	6			・農家との話し合いは良くされている様に見えました	
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6				
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	1			
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	1		・解決までしっかりと報告されていて良かった	
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	6			・次々と課題が出てくると思うので、長い目での支援と課題解決が必要	・今後も普及指導計画に位置づけ、継続して課題解決に取り組んでまいりたい。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	5	1			

全体的な意見

・産地をまもるうえでの課題を解決している様子がわかった。
・長島といえば赤土バレイショで有名だと思います。作付前に土壌診断をする事は大切な事だと思います。農家と関係機関の繋がりを密にし、情報共有できるネットワーク作りも大切だと思います。知らない！と言う事がないように。
・今どの作物も高温で農作物の減少が増えているので、抵抗性品種による生産安定を考えるのは良い。
・品種の選定、土壌診断、施肥改善 課題がありすぎますが農家さんの生産性向上につながる様に関係機関の協力を強化してほしい。
・バレイショについては適正施肥、排水などが必要であるので技術的な分野については取組んでいらっしゃると思います。今後の目玉はジャガイモシストセンチュウ対策のしまあかりと思いますのでより農家へ広げていくようお願いします。

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名③ ばれいしょ産地の維持・強化						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7	0	0		
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	6	1	0		
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	7	0	0		
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	6	1	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	6	1	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	3	0	・実証中のため成果・効果については概ね適当とした。	
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5	2	0		
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	5	2	0		
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	6	1	0		

※ 「外部委員から意見・提言」に対して「改善策や普及指導計画への反映等」が連動するように記載してください。

課題毎にシートを分けて作成してください。

全体的な意見
・今後も御指導を連けいをお願いします。 ・P2のグラフ凡例がない。品種変更はブランドに影響はないか。 ・生産安定技術改善は地域として農家として大変ありがたい。今後も引きつづきお願いしたい。 ・バレイシヨ品種の切換えについては、諸課題に向けてた対策を関係機関と一体的に取り組みましょう。

(地域の特色を活かした野菜産地の育成)

ばれいしょ産地の維持・強化

北薩地域振興局農政普及課出水市駐在
野菜普及グループ 田代 啓一朗

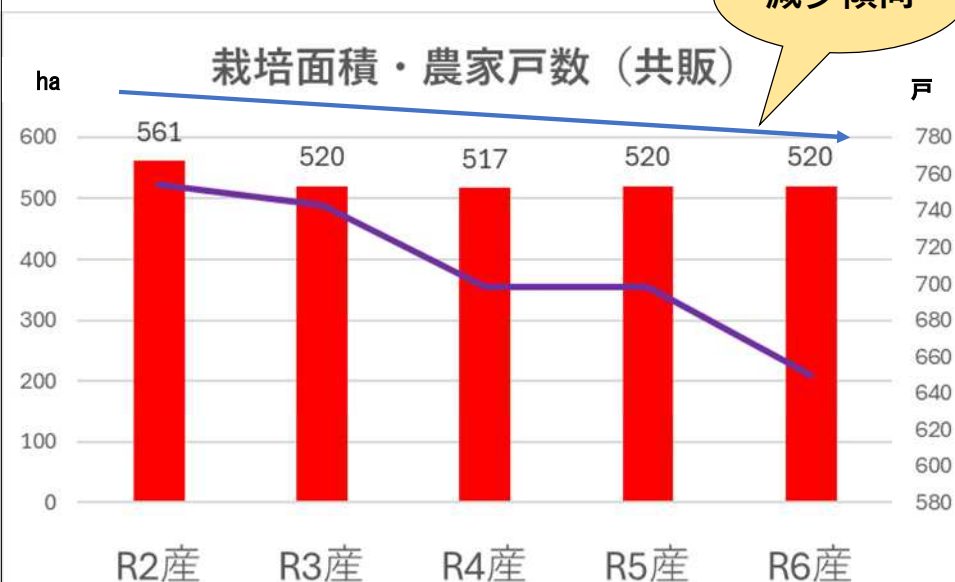
1

1 長島地区赤土ばれいしょ産地の概要

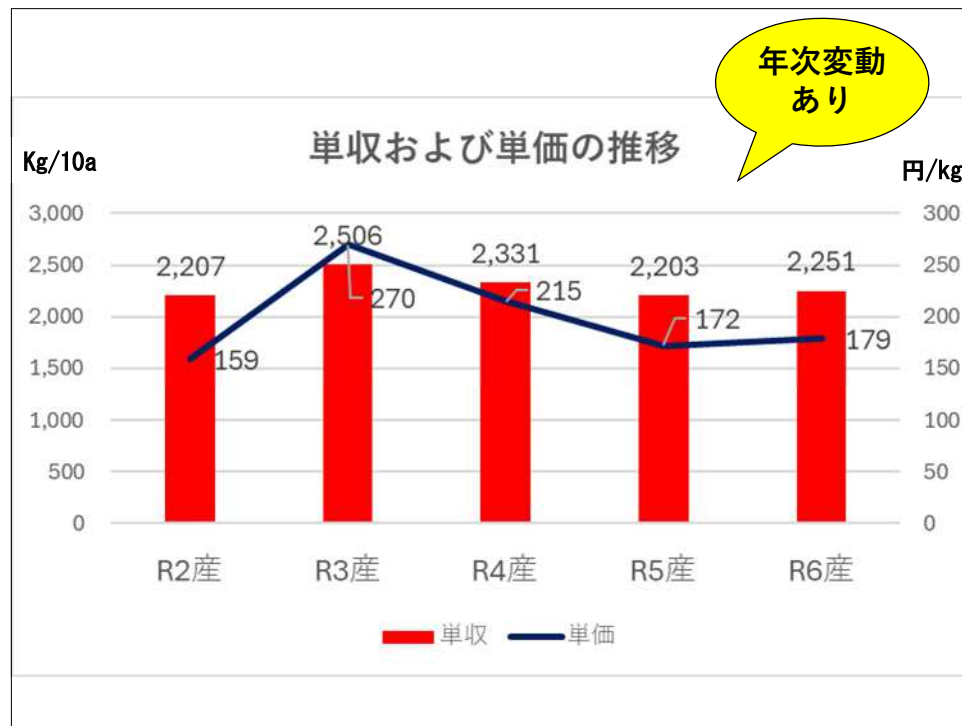
- ・昭和58年 青果用ばれいしょ栽培
- ・早春作 (9~10月植付け 1~2月収穫)
春作 (12~1月植付け 4~5月収穫) 導入
- ・平成8年度 J A 長島地区赤土バレイショ部会
発足
- ・県内一、九州でも有数のばれいしょ産地
- ・平成9年度かごしまブランド団体認定
- ・平成21年度 K-G A P 認証

2

2 課題を取り上げた理由



3 9



4

普及指導計画での位置づけ（令和7年度）

<地域の特色を活かした野菜産地の育成>

1 ばれいしょ産地の維持・強化

(1)新規就農者，青年農業者の定着支援

(2)生産安定技術改善

ア 土壌分析結果に基づく施肥改善

イ 県育成品種の導入検討

ウ そうか病抑制技術実証

2 豆類の産地維持と活性化

3 いちご農家の生産性向上

4 ミニトマト産地の維持・強化

3 活動内容

(1) 推進体制の整備



長島町技連会農産流通部会を毎月開催



J A赤土バレイショ部会役員会で説明，協議後実践



園芸振興協議会ばれいしょ部会で検討

部会，関係機関・団体が一体となって課題に取り組む体制が整備

3 活動内容

(2) 新規就農者，青年農業者の定着支援

ア 新規就農者の確保

- ・認定新規就農計画の作成支援
- ・次世代人材投資事業等の活用
- ・資金借受・事業導入支援
- ・経営継承支援



就農計画作成支援



専門家派遣による支援

関係機関・団体と連携して取り組んだ。

(2) 新規就農者，青年農業者の定着支援

イ 新規就農者の育成



現地就農トレーナー研修

新規就農者の声

「具体的な助言をもらい，大変参考になった！」



新規就農者現地検討会

青年プロジェクト実践支援



青年農業士認定

9

3 活動内容

(3) 生産安定技術改善

(現状・問題点)

- ・連作, そうか病対策 (低 pH 化) 等で化学性悪化
 - ① **低 pH**, **石灰・苦土不足** → 出芽・生育不良
 - ② **リン酸過剰** → そうか病のリスク増
 - ③ **カリ過剰** → 石灰・苦土の吸収阻害

(課題)

土壌診断に基づく施肥による土壌改善

(対策)

- ・ **土壌診断の啓発強化**
(講習会, 研修会, 情報誌, 未実施者個別推進)
- ・ **施肥改善技術の確立 (リン酸・カリ過剰対策)**

10

ア 土壌診断の啓発



- ・ 技連会で土壌回収 (早春作, 春作前の**年 2 回**)

- ・ 診断値に基づき処方箋作成

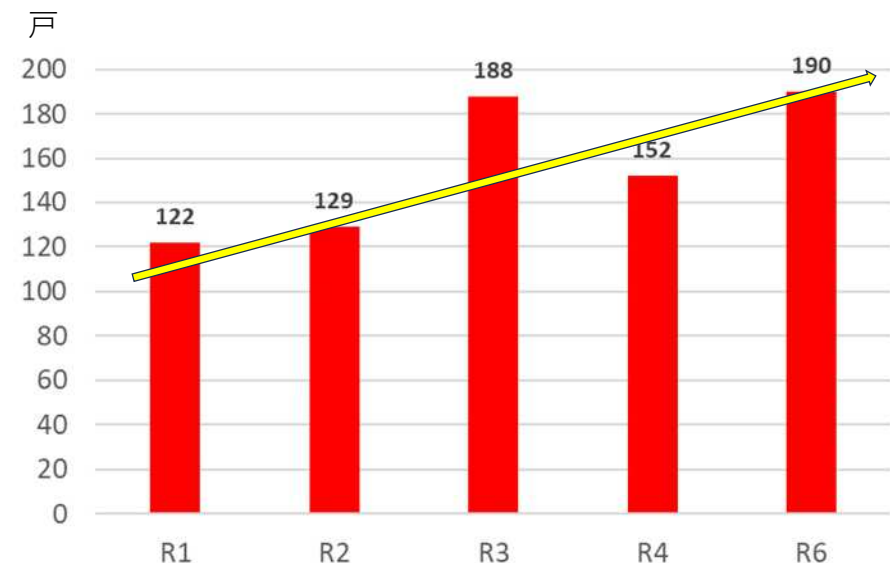
- ・ 施肥改善指導

項目	内容
農家名	〇〇農家
所在地	〇〇市 〇〇町 〇〇番
作物	〇〇
土壌診断結果	〇〇
施肥改善指導	〇〇

処方箋をもとに施肥指導

11

土壌診断実施農家数の推移



12

イ 施肥改善実証と新肥料の開発・普及

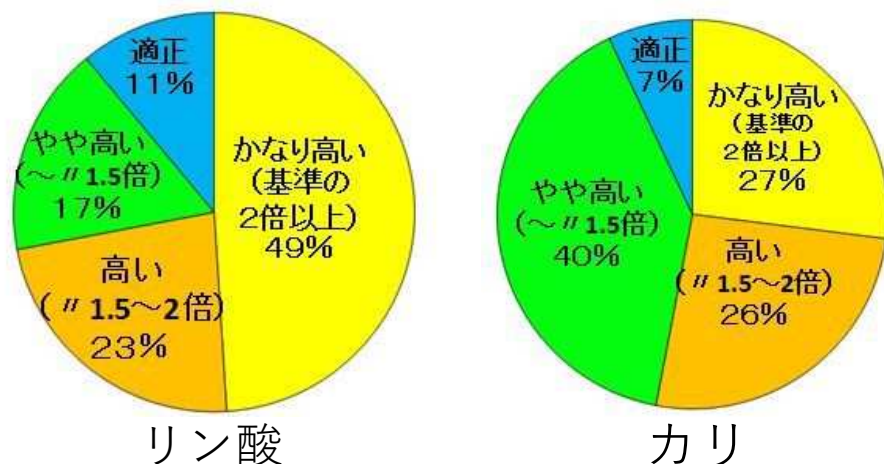


図 リン酸・カリの現状 (H30)

基準上限値を超えるほ場が約9割

13

<リン酸・カリ低減施肥の実証>

・平成30年度～園芸振興協議会出水支部の実証活動に位置づけ，早春作，春作で実施。

・平成30年度～令和元年度

試験区の構成

区	肥料	N－P－K（％）
慣行区	赤土バレイショ配合	12－8－8
実証区	P K 低減肥料	12－ <u>4</u> － <u>4</u>

・令和2年度～令和3年度

リン酸，カリのパターンを変えて実証

14

・令和4年度

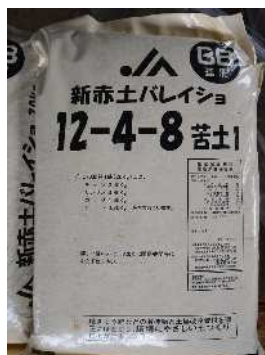
リン酸のみを1／2低減した「**新赤土バレイショ配合**」として，肥料登録（N12－P 4－K 8）

・令和5年度

早春作から，栽培講習会等を通じて「**新赤土バレイショ配合**」を普及

・令和6年度

早春作から，**栽培基準表に記載**

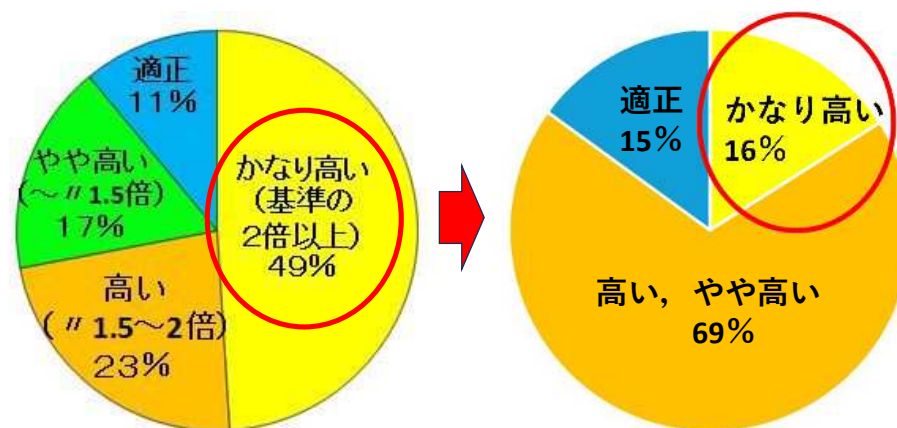


・ほ場へのリン酸蓄積軽減が期待

・袋あたり308円，10aあたり2,700円のコスト低減

15 12

ばれいしょほ場におけるリン酸含量の推移



H30年

R7年

16

3 活動内容

(4) 病害虫対策技術改善 そうか病

- ・令和2年度 アンケートから「土壌消毒実施無し」の結果。
- ・令和3年度～土壌消毒，土壌改良資材を活用し実証開始。



ダゾメット剤処理

そうか病発生調査
(前年度激発ほ場)

17

(4) 病害虫対策技術改善

ジャガイモシストセンチュウの啓発及び抵抗性品種の導入検討

「ジャガイモシストセンチュウ」とは

ばれいしょに**甚大な被害**を与え，高密度では**防除も難しい**

昭和44年北海道で初確認 ↓ 長崎県・熊本県など**全国へも拡大**

現在までに**鹿児島県内での発生は確認されていないが，…**



(北海道大学ホームページより)

18

ジャガイモシストセンチュウ 対策研修会の開催



長島地区 103名

東地区 38名

三笠地区 11名

周知の継続が
課題

合計152名出席

いずれの会場でも過半数以上が
「ジャガイモシストセンチュウを知らなかった」と回答

19 13

「ジャガイモシストセンチュウ」対策として，
抵抗性品種導入が最も有効！

本県育成抵抗性品種「しまあかり」の導入検討

- ・令和元年度～ 現地適応性の確認のための実証開始
- ・令和4～5年度 大規模実証（5～10a）の実施
- ・令和6年度 普及に向け展示ほ21か所設置（春作）



実証ほの設置

展示ほ設置状況（R7）

20

年度、作型によっては、しまあかり $\geq$ ニシユタカの
時もあるが・・・

早春作

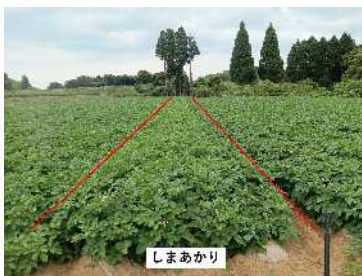


出芽遅れ



収穫までの期間
がやや長い

春作



茎葉の過繁茂
(収穫作業の負担増)

実証ほを設置して「しまあかり」に適した施肥、栽植様式、
導入作型などについて検討中

21

4 成果の要約

- 1 推進体制の整備ができた。
- 2 新規就農者の確保・定着支援が図られた。
- 3 土壌診断件数が増え（5年間で160%）、土壌改善につながった。
- 4 新肥料の普及で土壌改善とコスト減（2.7千円/10a）につながった。
- 5 実証成果の普及・啓発により生産性向上が図られた。
- 6 ジャガイモシストセンチュウの啓発、抵抗性品種による生産安定と産地の維持が見込まれた。

22

5 残された課題

- 1 新規就農者の確保・定着支援（継続）と経営発展支援
- 2 土壌診断の啓発及び施肥改善（カリ対策）
- 3 生産安定対策の実証・普及（高温対策等）
- 4 ジャガイモシストセンチュウの周知・啓発及び抵抗性品種の生産安定

23 14

現在実施中の高温対策（マルチ）実証



白黒

マルチ
無し

黒マルチ

ご清聴ありがとうございました



24